

SY7-1

子どもの事故における社会的決定要因

藤原 武男

東京科学大学 医学部 公衆衛生学分野

健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）の重要性が認識されて久しいが、子どもの事故についても例外ではない。SDHの考え方によれば、個人の要因、家庭・地域・学校の要因、社会政策の要因について分けてみることで、そしてより上流の政策にアプローチすることで予防することが可能とみることができる。本シンポジウムでは、子どもの事故に関するSDHを概観し、どのような政策的アプローチが可能か考えてみたい。

SY7-2

ヘルスエクイティの地域実装プロジェクト(2024年発足COI-NEXT)

門田 行史

自治医科大学ヘルスエクイティ・地域共創センター

本プロジェクトは、すべてのケアラーが公平で公正な健康と福祉の機会を得られる「ヘルスエクイティ」の実現を目指し、地域社会における持続可能なケア支援モデルを構築することを目的としている。現在、日本では約7割の介護・看病・療育が家族によって担われ、ケアラーの多くが社会的に孤立しやすい状況に置かれている。特に、「家族だから助けるのが当たり前」という意識が強く、支援を求めづらいという課題がある。本プロジェクトでは、ケアラーの健康を脅かす障壁を取り除くとともに、地域コミュニティの力を高めることで、ケアラーが安心して生活できる社会を実現する。2024年に発足した本プロジェクト(COI-NEXT)は、文部科学省の共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野に採択され、自治医科大学を中心に、病院、企業、自治体、政府、市民社会など、多様なステークホルダーが連携し、医療・福祉DXや生成AIを活用した包括的なケア支援システムの開発・実装を進めている。COI-NEXTの地域共創分野は、地域に根ざした課題解決と持続可能な社会システムの構築を目指し、学術機関と産官学民が連携して新たな価値を創出することを目的としている。本プロジェクトはその枠組みのもとで、地域社会におけるケアラー支援の革新的モデルを創出し、実装することを目指す。具体的には、全国のケアラーを対象とした継続的なコホート調査を実施し、データを基に最適な支援ソリューションを開発する。その社会実装の場として、20以上の企業からなる栃木県のリビングラボを活用し、実証実験を重ねながら、ケアラー支援の効果検証を行う。また、本学の卒業医師ネットワークを活用し、本拠地で開発された地域共生型ヘルスエクイティモデルを全国へ展開することを目指す。本プロジェクトの成果として、ケアラーがライフスタイルの一環として役割を果たしながら、自身の生活や健康を維持できる環境を整えることで、地域社会全体の福祉向上を図る。これにより、全世代がケアの負担を軽減し、誰もが支え合える持続可能な社会の実現に貢献する。本学会では、2024年に発足した本プロジェクトのビジョンと、これまでの成果について紹介する。